

【教材研究】

熊本県の地形教材

尚綱高 田代正之

小、中、高校を通して、地形教材として教科書に取上げられるものに熊本県の阿蘇のカルデラや八代の三角州がある。啓林館の中学理科には、幼年期の地形として、上益城郡の地形図の一部が紹介されている。教科書にあげられた地形例は、筆者の少年時代から現在まで、同じような場所や地方があげられている。例えば扇状地は松本盆地、海岸段丘は明石海岸というように。地形教材はこれらの地形例のように生徒が未だ行ったこともないような地方の地形よりも、より身近な地域の例をあげた方が判りやすく、又指導しやすい。そこで、熊本県に観られる地形例をあげると地形教材を十分に満足させることは出来ないにしても、その大部分が存在している。地形を形成する作用を、川、海、水、火山、地殻の変動（造陸運動）を主要因とするものに分け、順に県下の地形教材を列挙してみよう。

A、川的作用

- ①扇状地：人吉盆地の川辺川流域のたかんばる台地、その他人吉盆地へ流れ込む球磨川支流流域、蝦仙岳東方（国鉄三角線沿線からよくみえる）。
- ②蛇行：浜戸川（下益城郡富合村附近）。雁回山頂よりみると、かつての浜戸川の自然堤防がみえる。
- ③三角州：八代、球磨川河口、
- ④おう穴（ポットホール）：人吉市赤池東方の俗称かまのくど、宇土市綱引、菊池郡茂藤里発電所、菊池水源、菊池神社西方の川底、緑川上流砥用町附近、御船町七滝（図1）。
- ⑤V字谷：九州山地を深くはれば、ほとんどの谷がV字谷を形成している（五家荘）。

B、海水的作用

- ①海食崖と海食台（波食台）：天草諸島（図

2中之島）、宇土半島、芦北海岸等に普通にみられ、しばしば海食洞を伴う。

- ②海食洞：宇土郡三角町西港（一号橋下）、三角町里浦、天草下島海岸の妙見ヶ浦（図3）、崎津西方海岸、津奈木北方海岸近くの道路これらはいずれも縄紋海進の跡を示す隆起海食洞である。

- ③陸けい島：天草の富岡附近に発達している（図4）。

- ④砂嘴、砂州：ともに富岡附近にみられる。砂州は長州附近の海岸も好例、又小規模なものはあちこちにみられる。

C、火山地形

- ①カルデラ：有名な阿蘇があるが、他に金峰山が好例、小規模であるが、熊本の略中央にあり、観える範囲が広いので教材には最適、（二重式火山も同時に説明できる）。
- ②熔岩円頂丘：熊本県下ではあちこちに観られる。宇土半島の三角岳、大矢野の飛岳、中神島（つりがね島）、松島町の高壁島（図5）、御船町の船野山等。
- ③熔岩台地：天草郡大矢野町湯島（談合島）
- ④成層火山：富士や開聞岳の様な完全なものはないが、阿蘇中岳の火口壁を例にとればよいと思う。又、金峰山外輪部も例に使ってよいと思う。

- ⑤火山灰台地：シラス台地（人吉市、球磨郡水俣北方）、阿蘇の火山砕屑岩類の台地（熊本市の京町台地他県下各地に分布する）。

D、地殻の変動によるもの

- ①河岸段丘：熊本市竜田白川畔（図6）、球磨川流域坂本附近、菊池川上流穴川附近、緑川上流甲佐砥用間。
- ②海岸段丘：芦北海岸湯ノ児附近。天草松島町、大矢野町附近の島々の海岸に段丘と思われる平坦面をみることもある。又海水の

作用で述べた、海食崖や海食洞もここで取扱える。

- ③リヤス式海岸：芦北郡田ノ浦、海ノ浦海岸
リヤス式海岸や海岸段丘は地形のみでなく地史的な考察を加えて指導すべきだと考える。

これらの他に、宇土市赤瀬附近の地入り地帯や、金峰山周辺、大岳山周辺（網田附近）の崖すい堆積物なども教材として使えると思う。又、地形の輪廻については、せまい地域でいえるかどうか、筆者自身疑問を持っており、ここではふれないことにする。

